

令和8年9月 急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランス

8月期：第32～36週

宇都宮市のARIサーベイランスについて

本市では、市内12か所の定点医療機関からARIと診断された患者の数を毎週、御報告いただいています。これによって、宇都宮市におけるARIの流行状況を把握することができます。

また、患者数の報告を行う定点医療機関の中で、病原体分離のために検体採取を行う医療機関（病原体定点）が、市内に2か所定められており、採取した検体は宇都宮市衛生環境試験所にて、以下の呼吸器ウイルスの遺伝子検査を行っています。

検査対象病原体：インフルエンザウイルスA/B、新型コロナウイルス、
RSウイルスA/B、ヒトパラインフルエンザウイルス1～4、
ヒトメタニューモウイルス、
ライノウイルス/エンテロウイルス、
アデノウイルス

患者発生状況

【定点当たり報告数（図1）】

- ・ 2026年第32週における定点当たり報告数は51.08（前年70.50）で、前週の第31週の報告数53.50からやや減少しました。翌週の第33週には52.18（前年73.13）、第34週には43.75（前年60.33）、第35週は46.75（前年67.00）、第36週は60.83（前年71.58）となりました（図1）。
- ・ 定点当たり報告数について、栃木県（宇都宮市を含む）では第36週は65.64（前年80.06、第35週54.21）、全国平均では第36週は48.41（前年53.92、第35週40.48）でした。

【患者の年齢構成（図2）】

- ・ 8月期の最終週（第36週）の年齢別割合は、0-14歳が75.6%、15-59歳が14.4%、60歳以上が10.0%でした。

図 1：定点当たり報告数の推移

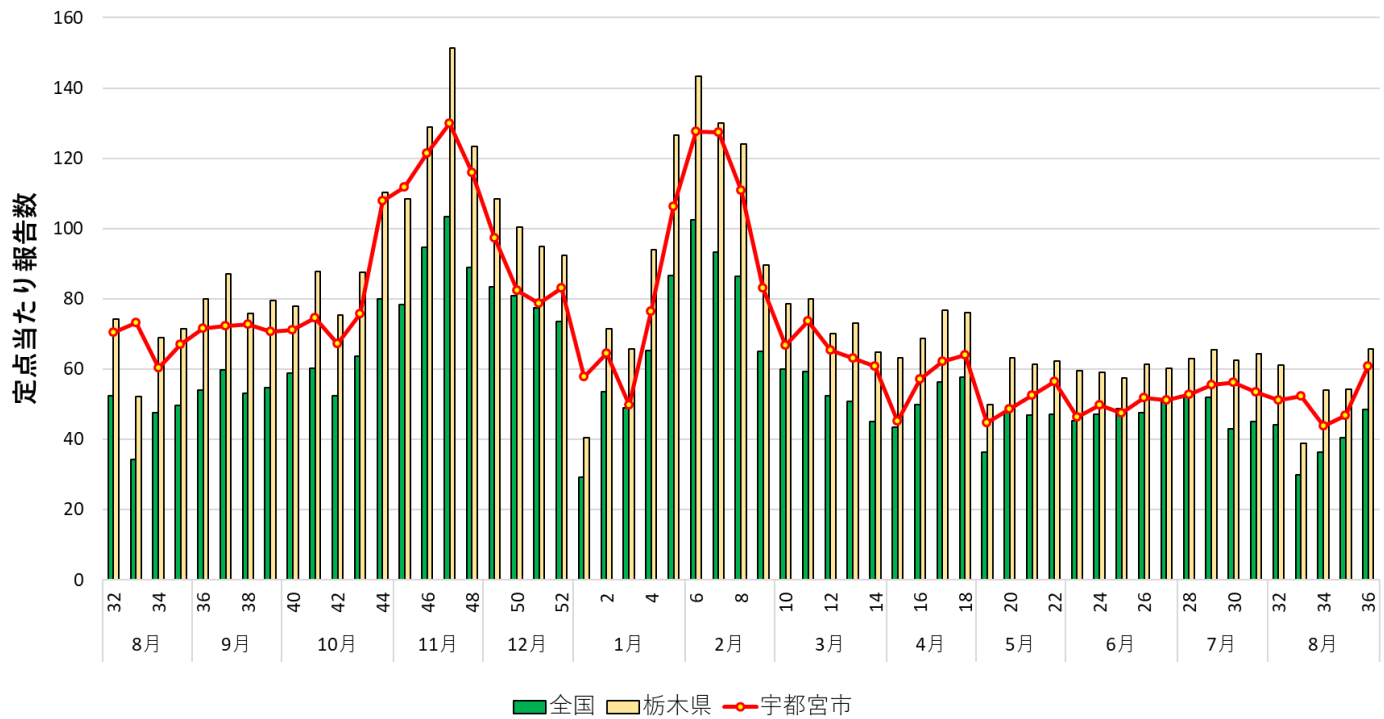
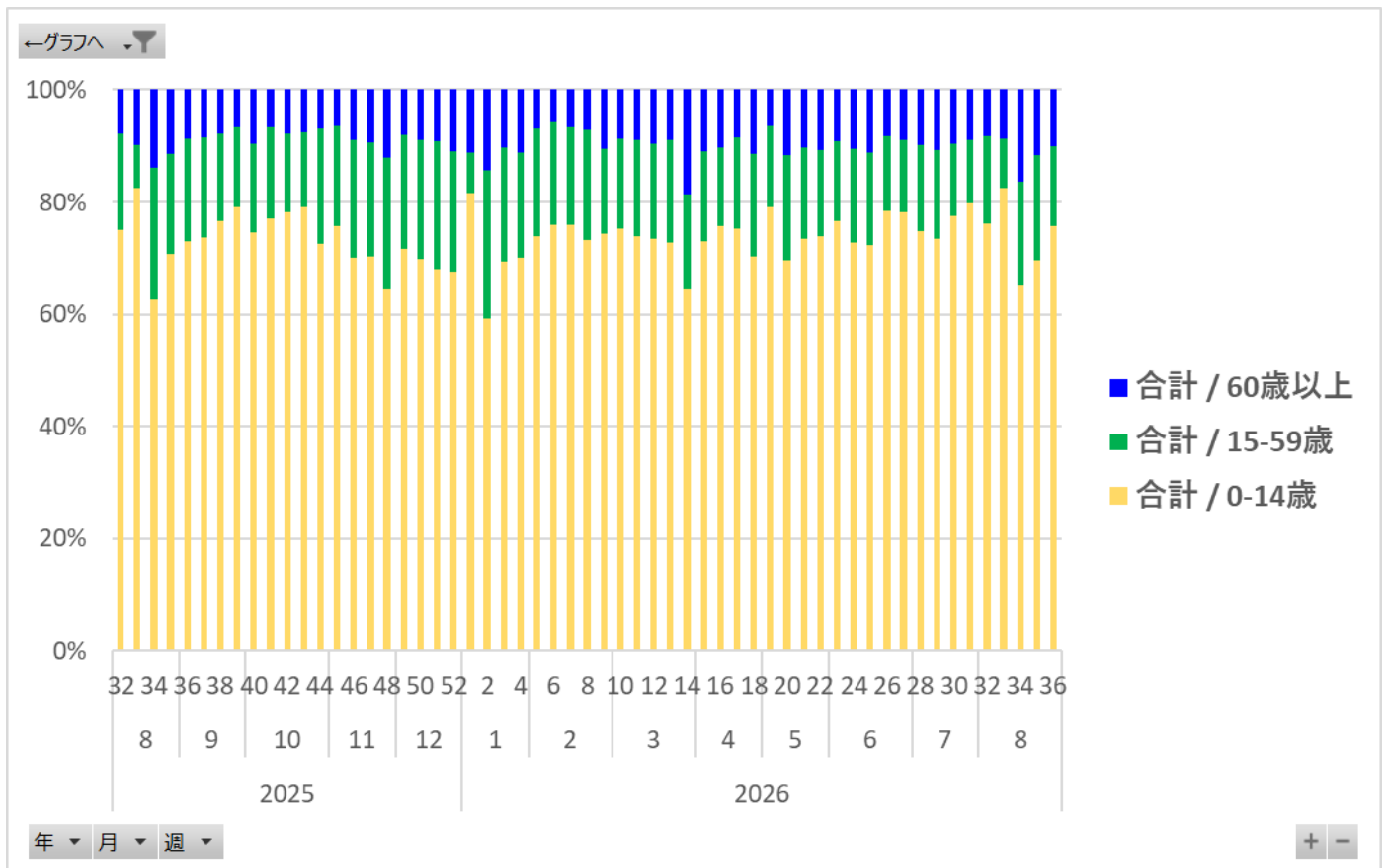


図 2：患者の年齢階級別割合の推移



病原体検出状況

【病原体検出状況（表 1，図 3）】

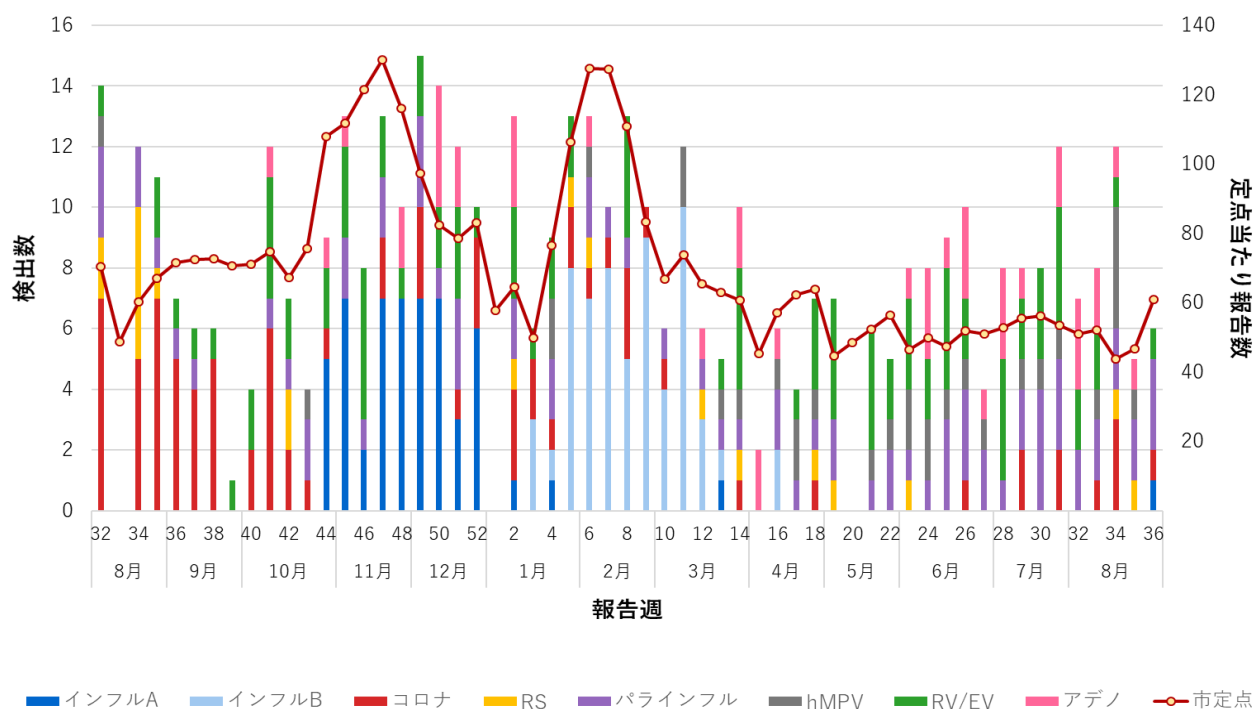
8 月に搬入された 40 検体（第 32～35 週分）のうち，23 検体から何らかの病原体が検出され，陽性率は 57.5%（前年は 86.7%，7 月期は 70.2%）でした。多く検出された病原体は，ヒトパラインフルエンザウイルス（9 件），ヒトメタニューモウイルス（6 件），次いで新型コロナウイルス（5 件）でした（表 1）。また，昨年度は検出されていなかったインフルエンザウイルス A 型（A/H1pdm09）が検出されました。

表 1：病原体検出状況（月別）

	8月	9月	10月	11月	12月	1月(2026)	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
検体数	30	35	49	40	40	40	40	39	39	40	40	47	40
陽性数(1検体1とする)	26	19	28	31	35	30	34	24	20	23	25	33	23
不検出数	4	16	21	9	5	10	6	15	19	17	15	14	17
陽性率(%)	86.7%	54.3%	57.1%	77.5%	87.5%	75.0%	85.0%	61.5%	51.3%	57.5%	62.5%	70.2%	57.5%
インフルエンザウイルスA	0	0	5	23	23	2	0	1	0	0	0	0	1
A/H1pdm09	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
A/H3	0	0	5	20	18	1	0	0	0	0	0	0	0
A亜型不明	0	0	0	3	5	1	0	1	0	0	0	0	0
インフルエンザウイルスB	0	0	0	0	0	12	29	18	2	0	0	0	0
B/ビクトリア系統	0	0	0	0	0	11	29	18	1	0	0	0	0
B/山形系統	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B系統不明	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
新型コロナウイルス	19	14	12	2	7	8	6	1	2	0	1	4	5
RSウイルス	8	0	2	0	0	2	1	1	2	2	0	0	2
A型	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1
B型	6	0	2	0	0	2	1	1	1	1	0	0	1
型不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヒトパラインフルエンザウイルス	6	2	4	7	8	4	5	5	8	7	9	13	9
1型	1	1	0	0	0	1	0	2	3	3	4	3	2
2型	1	1	0	3	3	0	3	0	1	1	0	1	0
3型	1	0	3	2	2	0	0	1	2	1	5	8	6
4型	3	0	1	2	3	3	2	2	2	2	0	1	1
型不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヒトメタニューモウイルス	1	0	1	0	0	2	1	3	5	4	5	3	6
ライノ/エンテロウイルス	3	4	10	11	8	8	4	1	8	13	8	15	4
アデノウイルス	0	0	2	3	6	3	1	1	3	1	8	9	4
検出数合計（同一検体からの複数検出含む）	37	20	36	46	52	41	47	31	30	27	31	44	31

※ 1つの検体から複数の病原体が検出される場合あり

図3：病原体検出状況(週別)

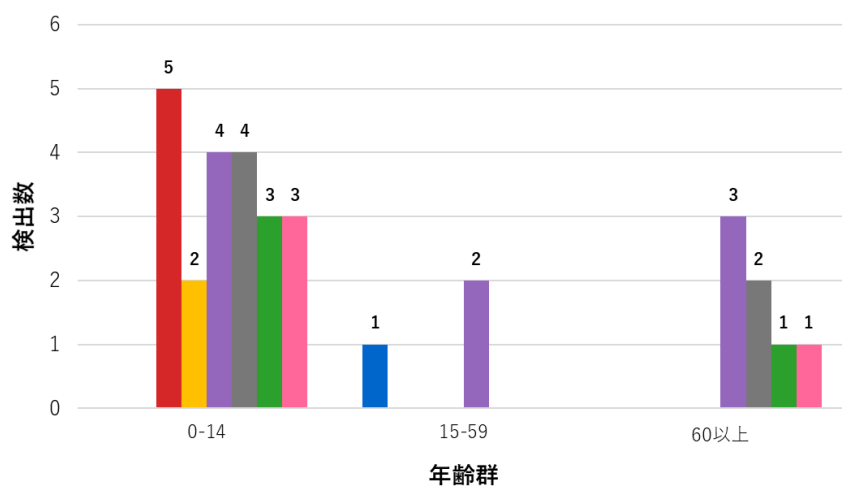


※hMPV：ヒトメタニューモウイルス、RV/EV：ライノウイルス／エンテロウイルス

【年齢別病原体検出状況（図4）】

8月に搬入された検体の年齢別内訳では、0～14歳が最も多く（陽性：13検体/21検体）、検出病原体の種類も多くみられました。0～14歳で多く検出されたものは、新型コロナウイルス（5検体）、パラインフルエンザウイルス（4検体）、ヒトメタニューモウイルス（5検体）でした。15～59歳では、検出割合は比較して少なく（陽性：3検体/12検体）、60歳以上では検出割合は100%で（陽性：7検体/7検体）検出病原体の種類も多くみられました。

図4：年齢別ARI病原体検出状況（8月）



※hMPV：ヒトメタニューモウイルス、RV/EV：ライノウイルス／エンテロウイルス

※ 1つの検体から複数の病原体が検出される場合もあります